



43 日名子実三《軍犬図額》

一面

昭和前期 プロンズ、鑄造  
総四〇・〇×四二・二

日名子実三(一八九三―一九四五)は大分県臼杵に生まれ、東京美術学校彫刻科塑造部を卒業、朝倉文夫へ師事した後、齋藤素巖らと在野の彫刻団体・構造社を結成した。ヨーロッパ留学を経て裸婦像に新生面を発揮したが、ヨーロッパで感銘を受けた大規模記念碑の制作に取り組み、宮崎市平和台公園にある《八紘之基柱》が代表作として知られる。

本作は香淳皇后の御遺品であるが、どのような経緯で皇室に納められたのかは明らかではない。軍用犬であるジャーマン・シェパードと銃を片手に持つ兵士の横顔をクローズアップしてとらえた構図で、正方形に近い四角形のなかにモチーフを巧みに配置し、迫力のある画面が構築されている。同様のモチーフの額面作品としては昭和九年(一九三四)の第十回帝展に出品された額面《偵察》があり、また時局の主題であることから、おそらく本作の制作時期もそれほど離れてはいないであろう。日名子が同人であった構造社は、メダル制作や壁面レリーフを得意としており、日名子は同人のなかでも最も意欲的にメダル制作に取り組んでいた。本作のレリーフ表現も、その豊富な経験の延長に生み出されたものである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ — 光と影の造型美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan